

補章 1 . 藤野町の地域特性や課題

ビジョンを検討するにあたって、タウン・ウォッチングなどにより、藤野町の地域特性、資源や課題などについて把握し、意見を出し合いました。

(1) 市民参画

意見の整理

- ・地域の結束力が評価されている一方、自治会の機能発揮や新住民の活力を生かすことなどが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・吉野地区に住んでいるが比較的、地域の「しぼり」がない
- ・地域の密着度が高く、住民の結束力が強い

【課題】

- ・小学校統廃合を見ても、自治会が機能をしていないところが多い
- ・新住民（半分以上）の活力が生かされていない
- ・住民による行政の解説、意見を発表する場を設け、質の高い住民の意見が醸成されなければ真の民主主義は育たない

(2) 行財政

意見の整理

- ・ソフト中心の施策への転換や町職員とのコミュニケーションのしやすさを評価されている一方、政策等に関する住民への分かりやすい説明の必要性を指摘

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・町の姿勢としてハコモノからソフトウェア中心への転換は評価できる
- ・気楽に、町職員の方と話ができる点

【課題】

- ・行政は、政策に関する総合的な見通しや経済的社会的必要性について考察を行い、住民に分かりやすく具体的に示す必要がある

(3) 交通

意見の整理

- ・JR中央本線、中央自動車道などの広域交通網へのアクセスの良さは評価されている一方、生活道路・通学路の安全性が課題（狭い・歩道がない）
- ・生活道路や公共交通網の弱さなど、集落が分散している地域特性等を背景に、

交通弱者の日常生活への不便さが課題

- ・ 藤野駅前は、道路（歩道を含めた）・駐車場の確保、沢井方面への立体交差、トンネルの拡幅、三連続信号の管理等が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・ JR中央線、中央自動車道など
- ・ 鉄道を利用しなくても、車を使えば、八王子、相模原、山梨へ自由に移動できること
- ・ 大都会に近く、藤野地域に入ると一変して田舎になる。現在求められている癒しのエリアとして最適。鉄道、国道、高速とアクセスは良好。居住するには最高の場所

< 藤野駅 >

- ・ 構内にある「名もない文庫」（誰にでも貸す）は藤野らしい
- ・ 建物、外観は「藤野らしくて良い」という都市の人たちもいる。藤野らしさを感じた

【課題】

- ・ 生活道路の充実（歩道設置）、通学路を中心とした道路整備（歩道設置）
- ・ 道路の整備（交通・防犯両面）と町内の交通アクセス確保（高齢化）
- ・ 公共交通網の充実
- ・ 教育や医療、福祉、生活交通問題を解決し、若者が安心して住める町づくりが必要
- ・ 車を運転できない世代は外に出にくい（山坂あり）
- ・ 集落が分散し生活交通網が完備されていないことから、交通弱者は日常生活に不便を伴う。手軽な手段としての自転車も走れるところが殆どない
- ・ 一般道路、通学道路とも整備改善が必要である所が多く感じた（同県道などに）
- ・ 道路、交通の安全面が良くない
- ・ 県道町道は劣悪である。特に児童生徒の通学路、通学手段の改善を最優先にする必要がある
- ・ 町営やまなみ温泉、県立藤野芸術の家、県立陣馬相模湖自然公園など自慢できるところに共通する課題は交通アクセスである。生活交通対策、道路整備等を通じて素晴らしい資源を生かす努力をしたい

< 和田・鎌沢地区 >

- ・ 生活交通対策の徹底。生活道路、通学路が狭い。通学路の安全対策（歩道が無い）
- ・ 公共交通体系の確立促進
- ・ 県道町道の改修、歩道の設置
- ・ 車中、道案内板等が少ない
- ・ 沢井トンネル拡幅、改修

< 沢井、佐野川地区 >

- ・道路が狭く不安全（交通・防犯両面）であり対策が必要

< 藤野駅周辺 >

- ・3年前にできたバス停留所は貴重なスペース、もっと活用できるのではないかと
- ・全般的にまとまりとかが無く混雑感が強い。道路（歩道を含めた）駐車場の確保、沢井方面への立体交差、トンネル拡幅、三連続信号の管理等総合的な見直が必要

< 町中心地 >

- ・国道拡幅、役場へのアクセス、踏切、トンネル、駅から国道・役場へのアクセス、商店街の整備活性化等、都市基盤の整備が急務で住民の意識の盛り上げと意思統一が必要。中央自動車道インターチェンジに近く、JR中央本線の駅、国道20号、津久井広域道路が湖の南からアクセスするなど、まちづくりの骨格、基軸を活かせる極めて恵まれた立地環境がある

(4) 都市基盤

意見の整理

- ・水源地域としての河川、水質の保全や下水道整備等の必要性の他、公園や携帯電話などの日常生活の不便さが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・排気ガスや騒音等公害問題は少ないが逆に日常生活の不便を実感する

【課題】

- ・水源としての河川、水質の保全（下水道の整備）
- ・緑は多いが、散歩できるような都市公園がない

< 和田・鎌沢地区 >

- ・携帯電話電波が届かない

(5) 自然・環境

意見の整理

- ・豊かな自然環境や川・清流・相模湖等の水源地域としてのアイデンティティ、清い空気、景観などが藤野町の良い特徴として評価
- ・水源地域の資源となっている相模湖や河川の水質の悪化、さらに水源地域を保全するための人材・情報の不足が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・自然環境がよい。環境が良い、自然に恵まれている
- ・地域ごとに、自然環境を大切にしていることは素晴らしいことである
- ・何といたっても自然豊か。季節のにおいを肌で感じることができる

- ・豊かな自然の中で心も大らか
- ・月並みな表現で緑や豊かな自然に恵まれていることであるが、住んでいる人はあまり実感が湧いてこない
- ・都心からの1時間の距離に位置し、緑と水は藤野の財産。効果的活用をする
- ・神奈川県の水源地としての相模湖を有していること
- ・水・清い空気
- ・水源地としてアイデンティティを発揮することができる
- ・大都会に近く、藤野地域に入ると一変して田舎になる。現在求められている癒しのエリアとして最適。鉄道、国道、高速とアクセスは良好。居住するには最高の場所。(再掲)

< 和田・鎌沢地区 >

- ・自然を生かした地域振興をしたい
- ・清流は藤野の象徴
- ・空気が澄んでいる(美味)と感じた

< 沢井、佐野川地区 >

- ・小溪谷的な自然が多く景観が良い。山、住居、道路が川面に近く、川水を利用した活性化が望ましい

【課題】

- ・相模湖のアオコ発生(夏は悪臭がひどく、水道水までアオコの臭いがする)
- ・湖、川の悪臭とゴミの散乱
- ・水源地は人不足、人材不足、情報不足でお手上げの状態である

< 和田・鎌沢地区 >

- ・水質保全対策
- ・沢井川の流れた、落ちついた地域で豊かな観光資源、景観、水辺、鉱泉宿等、県道拡幅や歩道、遊歩道設置、修景対策、空き地にモミジ、桜、梅、松等の植樹。沢井川の清流化、川辺の美化。子供達の安全対策、良好な新住宅地の確保等を進め、素晴らしい地域となる

(6) 産業

意見の整理

- ・町内の産業、就業先の少なさが大きな課題となっていることに加え、就業者の流出による地域のベッタウン化が地元意識の欠如を招いている
- ・商業施設は他町に頼っており、藤野駅前の商店街活性化が課題
- ・農林業の後継者不足、森林の荒廃や休耕地が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- < 和田・鎌沢地区 >
- ・斜面の茶畑がきれいである

【課題】

- ・さしたる産業もなく、経済に貧しく、行政効率も悪い
- ・企業や会社など働く場が少ない。雇用対策の問題のとりくみが必要
- ・JR藤野駅、高速道路のインターを有する藤野町であるが、住民生活を支える一定規模の工業や商業、農業の産業基盤が極めて貧弱なことから若年層を中心とした現役労働力は周辺都市へ流出し、高齢化が進展し町域全体が過疎化に向かっている
- ・地域に雇用能力が無く、ベッドタウン化しており、地元意識に欠け、町に対する無関心さが目立ちまとまりが無い
- ・商業の活性化
- ・ショッピングは町外に行かなければいけない（書籍など）
- ・商店が少なく。日用品、食料購入等に不便
- ・設備が不十分（図書館、病院、スーパーマーケットなど）
- ・他町に頼っている部分が多々ある（病院、火葬場、買い物）
- ・農林業の後継者不足

< 沢井、佐野川地区 >

- ・森林のメンテナンスが悪く荒廃している。また休耕地が多く活用が必要

< 藤野駅 >

- ・駅前整備をして商店街を誘致して活性化を図る、商店街の活性化が必要

< 町中心地 >

- ・国道拡幅、役場へのアクセス、踏切、トンネル、駅から国道、役場へのアクセス、商店街の整備活性化等、都市基盤の整備が急務で住民の意識の盛り上げと意思統一が必要。（再掲）

(7) 観光

意見の整理

- ・陣馬山麓は、ハイキングコースの案内や来訪者を呼び込む施設が必要
- ・吉野イベントパークは、町内の貴重な広い空間であるものの、施設内容の問題や景観が生かされていないことなど、施設の有効活用が課題
- ・芸術の家は、芸術文化の拠点として良い印象を持たれている一方、民間委託への移行に伴う地元配慮の低下への懸念等が課題
- ・藤野やまなみ温泉は、町内の自慢できる施設としてあげられている一方、藤野産の土産が少ないなど特産品販売等に関する課題やアクセスが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

< 吉野イベントパーク >

- ・場所、立地条件は、すばらしい。広さとして日あたりも良くながめも良く、イ

ベント会場として有効利用できればよい

- ・地域資源として活用、イベントパークは貴重なスペースで大切に活用したい

< 芸術の家 >

- ・環境は素晴らしい
- ・県の最北地域への配慮が感じられ、1市4町の合併ができれば、都市の貴重な施設となり周辺を含めて更に発展する。周辺地域の道路整備と修景対策を進め素晴らしい文化芸術と附随する地域産業を育成したい

< 藤野やまなみ温泉 >

- ・やまなみ温泉は環境も整備も自慢できる

【課題】

< 陣馬山麓 >

- ・甲州裏街道の史跡の標識、ハイキングコースの案内などがあれば良い
- ・陣馬を含めたハイキングコース等に客を足止めさせる施設と目玉が必要
- ・隣町のゴミ焼却場と、し尿処理場からでる水の水質が心配

< 吉野イベントパーク >

- ・現況の利用方法、内容等に問題あり。当初の計画段階の通り、多目的広場として使用出来るよう工夫が必要
- ・広い土地と、素晴らしい景観が活かされていない
- ・吉野の人たちが、パーク利用計画を早く出してほしい
- ・マレットゴルフ場は、多くの人が利用するものではない
- ・イベントパークは町内一の広いスペースである。別な利用方法で活性化すべきである。教育環境としては最適である。学校用地に利用してはどうか
- ・イベントパークは景観も良く好位置であるが余りにも放置的

< 芸術の家 >

- ・駐車場が狭い
- ・平成18年4月からの「民間委託」が心配(値上げ、地元配慮がなくなる)。町、また地元として今後の利用度合いが懸念される
- ・県立芸術の家もいいなと思うところ、多くの町民が利用できる対策を望む
- ・交通アクセスに難点があり改善が必要
- ・体験学習の拠点としての位置付けをし、発信基地としてネットワークづくりを考える
- ・芸術の家は地元の活用を推進する必要有り(アクセスも含め)

< 藤野やまなみ温泉 >

- ・野菜売り場が「困いこまれて」いるのは残念
- ・みやげ品で藤野産は少ない。木工品、冊子なども販売してもらえればよい
- ・シャワーのでの時間が短い
- ・交通アクセスに難点があり改善が必要

(8)土地利用

意見の整理

- ・集落が分散していることによる地域活性化への弊害や斜面が多い地形的条件などが課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

< 吉野地区 >

- ・津久井広域道路の勝瀬橋新設から国道 20 号へのアクセスあり、中央自動車道インターチェンジも近く新しい観光展開、事業所、新住宅の増加が期待でき、地域は活性化される

【課題】

- ・斜面が多すぎる
- ・人口の割に広く、分散しすぎて何事にも活性化に欠ける
- ・分散地域、高齢化に対応した対策が必要

(9)教育・文化

意見の整理

- ・教育に関する事項として、小学校給食施設に対する評価を得ている一方、学校の配置校区、図書館・カルチャースクールなど生涯学習に関する施設、プログラムの脆弱さが課題
- ・伝統的行事、芸術、文化に対する良い評価を得ている一方、町中に配置された芸術作品の管理不足が課題

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・各地区で伝統的・行事・文化がさかんに実施されていること
 - ・芸術というよりアート（美術）の町のカラーがでている
 - ・昔の宿場町が町内にあった参勤交代の大名宿として本陣もあった
- < 葛原神社周辺 >
- ・歴史的、芸術による町おこしについて、一般町民、多くの人が、画家との交流の場を広げていったら振興が図れて良い
 - ・素晴らしい景観
 - ・「芸術の道」の“交差点”になるのでは。（活用しきれていない感じ）
 - ・月 1 回、名倉小の子どもたちが彫刻周辺を清掃しているのは良い
 - ・歴史を感じる
 - ・地域の活性化に使ってコミュニティの和をひろげるには良い
 - ・四季を通じた事業など（外部評価につなげる）
 - ・地域資源として活用

< 名倉地区 >

- ・展望に恵まれ、歴史、伝統文化、芸術を感じる地域である

< 南小学校給食施設 >

- ・町内はじめての施設であり、大変良いと思った。今後出来る限り、早期には全校実施されたら良い。南小は環境も整備も自慢できる
- ・やはり自校方式にまさるものはない
- ・給食センターは非常に良い。特に地元産の食材を活用している点は最良
- ・色々な面で附带効果大きい

【課題】

- ・小学校区に問題
- ・小学校統廃合条例が制定され進行中であるが多くの問題を抱えたままである。町の地勢、道路網等を考慮し、学校の配置校区などの再検討をすべきである。H17年には名倉小が、H20年には小淵・吉野小が現在の日連小へ統合すると言うが環境や用地スペース等を考えれば適地とは言えない
- ・教育には相当厳しい負担を感じるが守らねばならない
- ・教育や医療、福祉、生活交通問題を解決し、若者が安心して住める町づくりが必要（再掲）
- ・高校以上の学校が無いのためか最も活力のある若者を見るのが少なくエネルギーを感じない
- ・学校（特に県立高校）に通うのに非常に不便、交通費が高額
- ・カルチャーセンター、生涯学習も町内には良いプログラムがない
- ・図書館も上野原町、相模原市、八王子市へ行く
- ・設備が不十分（図書館、病院、スーパーマーケットなど）（再掲）

< 和田・鎌沢地区 >

- ・通学路としては危険(車で通行中、歩いている人1人もおらず)

< 葛原神社周辺 >

- ・芸術作品の設置が町民生活にどれ程寄与するのか疑問
- ・自然を散策するには申し分ないが生活するための道路や施策がなく快適とは言えない
- ・通学には危険
- ・芸術作品が多くあり芸術の町を象徴する地域ではあるが手入れがゆきとどいていない。作品の補修、手入れは誰が行っているのか

< 名倉地区 >

- ・芸術作品が多くあり芸術の町を象徴する地域ではあるが手入れがゆきとどいていない
- ・川面から遠く高台に位置し、広い空で開放的な景観が良い。芸術作品が数有るがそのメンテナンスは悪い。PRを含めて見直しが必要。日連小学校附近は特に道路が悪く不安全。統合も考慮して大改善が必要。

- ・通学には危険
- < 南小学校給食施設 >
- ・南小は交通アクセスに難点があり改善が必要

(10) 保健・医療・福祉

意見の整理

- ・町内の医療施設の不足や子育て環境に対する家庭の役割の重要性を指摘

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

-

【課題】

- ・教育や医療、福祉、生活交通問題を解決し、若者が安心して住める町づくりが必要。(再掲)
- ・医療設備が充実していない。身近に医療機関が少ない
- ・総合病院があれば良い(相模湖町との共用でも)
- ・設備が不十分(図書館、病院、スーパーマーケットなど)(再掲)
- ・他町に頼っている部分が多々ある(病院、火葬場、買い物)(再掲)
- ・子どもを育てるためには家族の全面的協力が必要(移動手段、弁当、学童保育他)

若い世代の藤野ばなれ。離れないで藤野に住み続ける。子育て世代に何故ここに住み続けるのかを聞いてみるのも必要

(11) 安全・安心

意見の整理

- ・町内では、人と人とのふれあいが密接であり、地域の見守りがあることを評価

各委員から得られた意見の集約

【良いところ】

- ・人と人のふれあい(あいさつ運動実施、子供、大人とも)
- ・地域交流が密接(隣組) 地域の見守りがある
- ・住民に余裕があり生活がのんびりしている

【課題】

- ・元ホテルサンヒルズは「おばけやしき」になっていき若者(他町、他県から)が夜おとずれ治安の面で心配があり、見た目も印象悪い

1 市 3 町タウン・ウォッチング感想

ビジョンを検討するにあたって、1 市 3 町のタウン・ウォッチングを実施しました。以下に委員の視察の感想を示します。

1 市 3 町を視察した感想

1. 相模湖町について
人口規模は藤野町とあまりかわらない。(自然環境面とも)
高齢化比率が 4.5%も差がある(藤野町が高い)
 2. 津久井・城山町について
道路網の完備が良い。水源供給地となっている。津久井 4 町に
良い公共施設がある(津久井町にある)
 3. 相模原市について
人口 60 万人以上規模の大きさより、数多く感じた。
 1. 市道が平坦で自転車利用者が多く便利である
 1. 思っていたより緑が多い
 1. 大学の数が多い
 1. 各施設の充実・スケールの大きさが目立った。
特に健康・医療・福祉・センター(南清掃工場)
-
- ・相模原市の施設は素晴らしいが、市民が最大限利用しているという印象はない
 - ・相模原市の都市公園は良く管理されているが「大自然」を活かした森林公園はないという印象
 - ・「へそ」がない、ということは、ネットワーク的、分権的、多様な街づくりが可能(今までにない発展の可能性)
-
- ・今回相模原を中心にウォッチングを致しましたが、我が藤野町と比較し市民サービスへのソフトの部分である施策や取り組みの目標、実施状況、公共施設への配慮の点で雲泥の格差を実感した。
 - ・藤野は小規模人口と分散集落で行政効率性は 1 市 3 町に比べ最悪の町ですが合併によるスケールメリットと町民の参画による町づくりを通じて課題の解決に向うしか方法はないのでは。
-
- ・設備のすばらしさにただただ圧倒されるだけでした。
規模の違いには愕然とするものがあります。
-
- ・様々な施設等を視察したが、その全てが大規模であり、素晴らしく又今後の計画にも大型都市の底力を見せつけられた。非常に広い都市であり現状でも都市内分権の必要性を感じた。16 号線、および通勤時の道路渋滞は大きな課題であり、合併した場合、藤野から中央への交通手段改善は重点課題。しかし現相模原市には無いものが藤野町にはある(田舎)。

補章 2 . 藤野町合併まちづくり検討委員会の検討経緯

第1回検討委員会 平成16年12月3日(金)

内 容 正副委員長の選出
検討にあたっての基本的な考え方
検討スケジュール
1市3町と藤野町の現況
藤野町総合計画について



第2回検討委員会 平成16年12月6日(月)

内 容 藤野町タウン・ウォッチング
委員勉強会
- 都市内分権について
- 1市3町のビジョンについて
〔ワーク：まちづくりの施策を考える〕



第3回検討委員会 平成16年12月10日(金)

内 容 1市3町タウン・ウォッチング
〔ワーク：まちづくりの施策を考える〕



第4回検討委員会 平成16年12月16日(木)

内 容 藤野町総合計画について2
ビジョンの構成と作業主体
まちづくりの課題の確認
まちづくりの方向性



第5回検討委員会 平成16年12月23日(木)

内 容 新市における藤野町としての在り方
まちづくりの目標



第6回検討委員会 平成17年1月6日(木)

内 容 新市における藤野町地域のめざす姿
庁内照会結果の検討
まちづくりの目標



補章 3 . 藤野町合併まちづくり検討委員会 委員名簿

区 分	氏 名	備 考
公募選出委員	佐々木 宣彰	委員長
	山崎 正夫	副委員長
	檉 喜代志	
	大房 登	
	山崎 泰文	
	山口 景	
藤野町合併 まちづくり検討委員会 規程第4条第4項出席者	矢越 孝裕	相模原・津久井地域まちづくりの 将来ビジョン検討委員会
	中里 州克	
	小嶋 重春	
	永井 充	
	石井 靖	藤野町総合計画まちづくり検討委員会
アドバイザー	高見沢 実	横浜国立大学大学院工学研究院助教授
	牛山 久仁彦	明治大学政治経済学部助教授

(順不同、敬称略)